

調査・安全小委員会 中間報告書（概要）

- 衛星フェアリング分離開始直後に、衛星搭載アダプタ（PSS）に損傷が発生したことが起点となり、「みちびき5号機」は、ロケットの第1段機体が分離された時点でロケットから離脱したと推定
- PSSの製造工程で生じた内部の剥離がフェアリング分離時の衝撃等により進展することで、PSSが破損したことが主要因であると特定
- 打上げ再開に向けた対策について、補修方式（樹脂充填等）、ファスナ結合方式（ボルト結合）ともに十分な強度余裕を確保可能と確認
- 実用衛星搭載機では、剥離のリスクを排除したファスナ結合方式PSSを適用すること、30形態試験機については、補修方式PSSを適用し、今回の原因究明評価の裏付けや後続ミッションの確実性を増すための追加のフライトデータを取得することは必要かつ重要であると評価
- 水平展開として、PSSと同様の接着構造がある衛星フェアリングの再評価を進めるとともに、背後要因分析を詳細に実施することが必要

